

「健康」に関する区民アンケート調査 報告書

令和7年3月

墨田区

目次

第1章 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査方法等	1
3 回収結果	2
4 報告書の見方	4
5 標本誤差	5
第2章 一般区民調査結果	6
1 属性	6
2 健康状態や意識について	15
3 食生活・栄養について	37
4 身体を動かすことについて	54
5 たばこについて	66
6 飲酒について	85
7 健康の自己管理について	91
8 歯の健康について	110
9 自殺対策について	116
10 感染症予防・食品衛生について	119
11 地域活動について	124
12 子どもの健康について	132
13 健康づくりに関する意見、行政への要望について	139
第3章 16～19歳調査結果	140
1 属性	140
2 食事について	147
3 歯の健康について	156
4 日ごろの生活について	157
5 身体を動かすことについて	165
6 たばこ・飲酒について	166

7	自殺対策について	178
8	感染症予防について	179
9	日ごろの健康づくりについて	183
10	健康づくりに関する意見、行政への要望について	185
第4章 中学生調査結果		186
1	属性	186
2	食事について	191
3	歯の健康について	197
4	日ごろの生活について	198
5	たばこ・飲酒について	210
6	感染症予防について	215
7	日ごろの健康づくりについて	218
第5章 調査票		220
1	一般区民調査	220
2	16～19歳調査	229
3	中学生調査	235

第1章 調査概要

1 調査目的

令和4年3月に策定した「すみだ健康づくり総合計画（後期）」において掲げた目標値の達成状況を確認するとともに、区民の健康づくりに関する意識や実態を把握し、次期計画の策定に向けた基礎資料とする。

2 調査方法等

調査は、下記の3対象にそれぞれ調査票を分けて実施した。

- (1) 墨田区在住の20歳以上の男女（以下「一般区民調査」）
- (2) 墨田区在住の中学卒業～19歳の男女（以下「16～19歳調査」）
- (3) 墨田区内の区立学校に通う中学2年生の男女（以下「中学生調査」）

(1) 一般区民調査

対象	墨田区在住の20歳以上の男女	
方法	郵送による配布、郵送・WEBによる回収（礼状兼督促状のハガキ1回）	
期間	令和6年8月26日～9月30日	
回収状況	標本数：2,000人 有効回収数：784件（回収率：39.2%）	郵送での回答：513件（65.4%） WEBでの回答：271件（34.6%）
調査内容	・健康状態や意識について ・食生活・栄養について ・身体を動かすことについて ・たばこについて ・飲酒について ・健康の自己管理について ・歯の健康について ・自殺対策について ・感染症予防・食品衛生について ・地域活動について ・子どもの健康について ・回答者自身について 等	

(2) 16～19歳調査

対象	墨田区在住の中学卒業～19歳の男女	
方法	郵送による配布、郵送・WEBによる回収（礼状兼督促状のハガキ1回）	
期間	令和6年8月26日～9月30日	
回収状況	標本数：350人 有効回収数：117件（回収率：33.4%）	郵送での回答：41件（35.0%） WEBでの回答：76件（65.0%）
調査内容	・食事について ・歯の健康について ・日ごろの生活について ・身体を動かすことについて ・たばこ・飲酒について ・自殺対策について ・感染症予防について ・日ごろの健康づくりについて ・回答者自身について 等	

(3) 中学生調査

対象	墨田区内の区立学校に通う中学2年生の男女		
方法	回答案内を配布し、WEBによる回収		
期間	令和6年11月1日～11月15日		
回収状況	標本数：1301人 有効回収数：480件（回収率：36.9%）		
調査内容	・食事について ・歯の健康について ・日ごろの生活について ・たばこ・飲酒について	・感染症予防について ・日ごろの健康づくりについて ・回答者自身について	等

※中学生調査については、前回の令和元年調査と抽出方法、実施方法が異なるため、前回調査との比較は参考程度にとどめる。

3 回収結果

(1) 一般区民調査

①標本数 2,000人

②有効回収数 784件

③有効回収率 39.2%

④性・年代別回収状況

	全体			男性			女性		
	標本数 (人)	有効 回収数 (人)	有効 回収率 (率)	標本数 (人)	有効 回収数 (人)	有効 回収率 (率)	標本数 (人)	有効 回収数 (人)	有効 回収率 (率)
全体	2,000	784	39.2	984	328	33.3	1,016	433	42.6
20歳代	361	68	18.8	173	30	17.3	188	38	20.2
30歳代	412	128	31.1	205	56	27.3	207	72	34.8
40歳代	395	143	36.2	200	61	30.5	195	79	40.5
50歳代	370	151	40.8	194	66	34.0	176	80	45.5
60歳代	185	105	56.8	100	49	49.0	85	55	64.7
70歳代	182	118	64.8	84	49	58.3	98	69	70.4
80歳以上	95	44	46.3	28	13	46.4	67	30	44.8
無回答		27			4			10	

(2) 16~19 歳調査

- ①標本数 350 人
- ②有効回収数 117 件
- ③有効回収率 33.4%
- ④回収状況

	全体			男性			女性		
	標本数 (人)	有効 回収数 (人)	有効 回収率 (率)	標本数 (人)	有効 回収数 (人)	有効 回収率 (率)	標本数 (人)	有効 回収数 (人)	有効 回収率 (率)
全体	350	117	33.4	180	56	31.1	170	59	34.7

(3) 中学生調査

- ①標本数 1,301 人
- ②有効回収数 480 件
- ③有効回収率 36.9%
- ④回収状況

	全体			男性	女性
	標本数 (人)	有効 回収数 (人)	有効 回収率 (率)	有効 回収数 (人)	有効 回収数 (人)
全体	1,301	480	36.9	227	245

4 報告書の見方

- 集計は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。
- 回答の比率(%)は、設問に対する回答者数を分母として算出しているため、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- 基数となるべき実数は、(N：number of cases の略)として表示している。(グラフで使用)
- クロス集計表における「合計」は回答者数を示しており、その右側に並ぶ数値は、上段が実数で、下段が割合(%)を示している。(下記のクロス集計表の例を参照)
- クロス集計表の表側部分(回答者の属性)に関しては、「無回答」を除いている。
- クロス集計表は、項目ごとに上位1位に濃い網掛け、上位2位に薄い網掛けをしている。ただし、回答者数が10未満と少ないものについては、集計結果を参考程度にとどめるため、本文中に図表を掲載しているが、コメントは記載しておらず、網掛けもしていない。

クロス集計表の例

回答者数

		合計	十分に足り ている	ほぼ足りて いる	やや不足し ている	まったく不 足している	無回答
性別	男性	328	50 15.2	120 36.6	136 41.5	21 6.4	1 0.3
	女性	433	73 16.9	161 37.2	170 39.3	28 6.5	1 0.2
	回答しない	11	2 18.2	5 45.5	3 27.3	1 9.1	0 0.0
年代別	20歳代	68	11 16.2	25 36.8	30 44.1	2 2.9	0 0.0
	30歳代	128	22 17.2	40 31.3	53 41.4	13 10.2	0 0.0
	40歳代	143	19 13.3	47 32.9	67 46.9	10 7.0	0 0.0
	50歳代	151	21 13.9	52 34.4	66 43.7	12 7.9	0 0.0
	60歳代	105	19 18.1	41 39.0	39 37.1	6 5.7	0 0.0
	70歳代	118	23 19.5	58 49.2	32 27.1	5 4.2	0 0.0
	80歳以上	44	8 18.2	19 43.2	13 29.5	2 4.5	2 4.5

上段：実数
下段：割合

5 標本誤差

この調査結果をみる際に、考慮すべき統計上の誤差（標本誤差）があり、誤差の大きさは「回答者数（標本数）が少ないほど大きく」また、「回答比率が低いほど大きく」なる。

標本誤差は、以下の式で求められ、比率算出の基数、回答の比率によって誤差範囲が異なる。

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N = 母集団数
n = 比率算出の基数（回答者数）
p = 回答の比率（%）

下記の表は、今回の調査結果の標本誤差を示したものである。例えば、調査でのある設問の回答数が784であり、Aと回答した人の比率が60%だった場合、その結果全体（母集団）の結果として考える時に、「±3.42%の誤差があり、Aの回答比率は56.58～63.42%」とみることができる。

回答比率 (p) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
784	±2.10%	±2.80%	±3.20%	±3.42%	±3.49%
700	±2.22%	±2.96%	±3.39%	±3.62%	±3.70%
500	±2.63%	±3.50%	±4.01%	±4.29%	±4.38%
300	±3.39%	±4.52%	±5.18%	±5.54%	±5.65%
100	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%

この表の計算式の信頼度は95%である。

※標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査において、全体を対象に行った調査と比べて、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能であり、その計算式を今回の調査に当てはめて計算したものが上記の表である。